

令和6年度 設楽町第2次総合計画「目標指標」進捗状況確認表

資料1－1－1

	総合	目標指標			R6確認状況			結果に対する現状、原因、改善について
	番号	項目名	現状値(R3)	目標値(令和8年度末)	R6達成実績	自己評価	担当課	
みんなが主役の全員協働のまちづくり	1-1	まちづくりに関わりたいと思う人の割合	31.30%	40%	30.6% (R3実施)	D 目標を 少し下回る	企画ダム対策課	参画協働に対する意識が低い。協働のまちづくりに向けて取り組みを進める。
	1-2	この町に住み続けたい人の割合	75.30%	80%	46.8% (R3実施)	E 目標を 下回る	企画ダム対策課	協働のまちづくりを進める中で、地域への愛着、誇りを向上させていく。
	1-3	審議会等における女性の割合	15%	25%	16.1%	E 目標を 下回る	総務課 (企画ダム対策課)	数値は減少傾向にあり、改善に努めていく必要がある。
	1-4	公共施設の床面積(83,537㎡)の10%削減(累計)	466㎡	8,354㎡	639㎡(当年度) 6,868㎡(累計値)	E 目標を 下回る	財政課	「公共施設等総合管理計画」策定時の建物延べ床面積を、H29～R8まで(10年間)に10%削減する目標設定になっている。8年目のR6年度末時点で除却等による累計削減面積は目標値(8,354㎡)の約74.6%(6,229㎡)を削減しているが、当初目標設定時に「道の駅したら」(2,943㎡)「八橋斎苑」(753㎡)などの新設面積を加味していなかったため、本計画の最終年度における目標の達成値は厳しいものと考え、自己評価はEとした。 ※本数値は、道の駅したら及び新斎苑の増加面積は含んでいない。
森と水が活きる環境共生のまちづくり	2-1	間伐実施面積(累計)	1,792ha	5,100ha	186ha(当年度) 2,424.5ha(累計値)	E 目標を 下回る	産業課	町内の間伐のほとんどは森林組合が行っていることから、現在の実績面積が森林組合の間伐施業能力の上限であると考えられる。森林組合以外による間伐を推進するため、令和6年度に森林所有者を対象に小規模森林整備に対する補助制度及び林業機械購入等への補助制度を創設し、補助金を活用した間伐が約6haあった。
	2-2	河川の浚渫(しゅんせつ)箇所(累計)	11箇所	16箇所	2箇所(当年度) 16箇所(累計値)	C 目標ど おり	建設課	目標どおり進んでいる。
	2-3	木質バイオマスストーブ補助申請数(累計)	18件	20件	3件(当年度) 31件(累計値)	A 目標を 上回る	企画ダム対策課	目標を上回っている。
	2-4	環境美化活動の実施団体数	8団体/年	13団体/年	9団体/年	E 目標を 下回る	生活課	「クリーンアップしたら」実施団体数とした。実施団体数は横ばいであり、今後も区長会等を通じ啓発に努める。
	2-5	ごみの排出量	839g／人・日	817g／人・日	851g／人・日	E 目標を 下回る	生活課	コロナ禍以降の生活様式の変化により排出量は830g～860gで停滞している。今後、ゴミの出し方の啓発により減少に努める。
	2-6	うち資源ごみの排出量	166g／人・日	207g／人・日	129g／人・日	E 目標を 下回る	生活課	令和4年にプラスチック資源ゴミの分別収集を始めたが、排出量は130g前後で大きな変化はない。今後も分別の徹底等により資源ごみの増加に努める。
地域産業の魅力と活力にあふれるにぎわいのまちづくり	3-1	新規就農林者数(累計)	12人	25人	2人(当年度) 17人(累計値)	D 目標を 少し下回る	産業課	R6年度の新規林業従事者2名(設楽森林組合新規採用)。農業従事者は、R7年度から就農者3名の対応を行ってきた。
	3-2	担い手の農地利用集積面積	159.4ha	284.0ha	163.1ha	D 目標を 少し下回る	産業課	町の農地面積に対し担い手が少ないため、担い手を増員する必要がある。
	3-3	農地環境整備事業の受益面積	210.4ha	222.0ha	11.6ha(当年度) 226.6ha(累計値)	C 目標ど おり	建設課	目標どおり進んでいる。(R6事業完了)
	3-4	遊休農地面積	22.8ha	20.5ha以内	23ha	D 目標を 少し下回る	産業課	年々農業者の高齢化や人口減少により耕作を行っていない農地が増えているため、新たな担い手の確保及び有効活用できる施策が必要。
	3-5	道の駅(物販)の来客数(年間)	195,235人/年	300,000人/年	323,743人/年	C 目標ど おり	産業課	各道の駅で様々なイベント等を実施することによって来客数が伸びた。今後はさらに各道の駅の味を出したイベントを増設していく必要がある。
	3-6	観光入込客数(年間)	487,289人/年	600,000人/年	471,388人/年	E 目標を 下回る	産業課	道の駅全体は微増ではあるものの他の観光施設の来客数が伸びていない。釣り客や原生林への誘客をイベントを行いながら進める。
安全で快適な暮らしやすいまちづくり	4-1	汚水処理人口の普及率	89%	95%	93%	D 目標を 少し下回る	生活課	最終目標値は下回るが、令和3年度からの増加率を鑑みると令和8年度までに目標達成できる見込。
	4-2	町道の改良延長(累計)	202.5km	207km	0km(当年度) 203km(累計値)	C 目標ど おり	建設課	目標どおり進んでいる。
	4-3	林道の舗装延長(累計)	100km	105km	1km(当年度) 105km(累計値)	C 目標ど おり	建設課	目標どおり進んでいる。
	4-4	橋梁の長寿命化修繕件数(累計)	17件	21件	2件(当年度) 22件(累計値)	C 目標ど おり	建設課	目標どおり進んでいる。
	4-5	公共交通の住民一人あたりの利用回数	7.9回/年	7.9回/年	11.3回/年	A 目標を 上回る	生活課	前年度に比べ、田口新城線の利用者が増加したことにより、数値が改善された。路線バス利用者は年々微減している。しかし、福祉移送サービスやのってかっせ(津具地区)の利用者は増加傾向にあるため、数値が改善された。
	4-6	防災アプリの加入促進	7.20%	50%	29.90%	E 目標を 下回る	総務課	新規加入促進のために町内イベントに出掛け主に高齢者を対象に加入促進を行った。目標より下回っているが少しづつ加入者は増えている。
	4-7	基本消防団員数の確保	126人/年	120人/年	85人/年	E 目標を 下回る	総務課	基本団員数は退団者が新規入団者を上回っている傾向が続いており年々減少している。
	4-8	水道管の耐震化率	40%	42%	42%	B 目標を 少し上回る	生活課	令和3年度に作成した、補助対象事業の生活基盤施設耐震化等整備計画(5か年)に則り耐震化を進めている。令和6年度は、約2.1km分を耐震管に更新した。

支えあいと助け合いのまちづくりによる安心福祉	5-1	特定健診(国保)の受診率	49%	60%	52.00%	D 目標を 少し下回る	町民課	コロナ禍で大きく減少後元の水準には回復しているが、令和4年をピークとして令和6年度まで再び減少傾向となっている。70歳以上の受診率が高い傾向にある中で、後期高齢医療へ移行する75歳到達者(団塊世代周辺)が増加しており、受診率が減少しやすくなっている。これまで通りレセあり未受診者(医療機関受診歴のある健診未受診者)の受診率を上げることも大切であるが、受診率の低い40-50代へのアプローチが目標達成につながると考えられる。引き続き受診勧奨ハガキの発送及び医療機関への受診勧奨協力依頼を行っていく。
	5-2	「この地域で子育てしたいか」	94%	100%	90.0%	D 目標を 少し下回る	保健福祉センター	R6年度は転入の妊婦が多かった。サービスや事業に関する情報提供と切れ目ない支援を継続し行っていく。
	5-3	要介護等認定率	23.90%	20%以内	23.11%	D 目標を 少し下回る	町民課	令和5年度と比べ認定率は減少しているが、目標は下回っている。
	5-4	福祉施設等から一般就労に移行した障害者数(累計)	0人	2人	0人(当年度) 2人(累計値)	C 目標ど おり	町民課	令和5年度と比べ就労実績がなかった。引き続き、一般就労に向けて支援していく。
人とまちの未来を育む教育文化のまちづくり	6-1	町内中学校から田口高校への進学率	54.5%	55%	48.5%	D 目標を 少し下回る	教育委員会	生徒の多様な進学志向により、町外の高校等への進学が多くなった。
	6-2	生涯学習講座、芸術文化鑑賞会、町民文化祭の年間参加者数	-	1,000人	1,114人	B 目標を 少し上回る	教育委員会	田口高校文化祭と同日同会場で開催した。一日で開催することで集客の分散が減った
	6-3	スポーツ施設年間利用者数	20,091人/年	22,000人/年	24,476人/年	B 目標を 少し上回る	教育委員会	利用者数が多い施設と少ない施設がある。
	6-4	図書館年間利用者数	4,268人/年	5,000人/年	4,326人/年	E 目標を 下回る	教育委員会	図書館だよりなどを通して町民に対し、読書推進を行ったが、読書をする人口が減少したため。メディア機器や電子書籍の使用などにより、図書館を利用する人が減少しているため。1回の貸出図書数が3冊から8冊に増えたため。
	6-5	奥三河郷土館入館者数	9,427人/年	10,000人/年	4,510人/年	E 目標を 下回る	教育委員会	リピーターを多く集客できるような企画を展開できていないため。
	6-6	奥三河郷土館主催の企画展、講座等の年間開催回数	0回/年	14回/年	1回/年	E 目標を 下回る	教育委員会	企画案は有するが、職員が収蔵品の整理・移転や事務運営等に時間を割かれ、具体的事業化へと展開する猶予がない。

A 目標を上回る	2
B 目標を少し上回る	3
C 目標どおり	7
D 目標を少し下回る	9
E 目標を下回る	13

34

【参考】

◆番号分類（計画本編の分野別）

- 1 みんなが主役の全員協働のまちづくり
- 2 森と水が活きる環境共生のまちづくり
- 3 地域産業の魅力と活力あふれるにぎわいのまちづくり
- 4 安全で快適な暮らしやすいまちづくり

◆凡例（自己評価の区分）

- A 目標を上回る
- B 目標を少し上回る
- C 目標どおり
- D 目標を少し下回る

}⇒「2表 背景・理由」シートへ

1表の番号	1表の 自己評価 (再掲)	見直し後3年目としての、目標を上回った背景、下回った理由(具体的に)、今後の対応方針、その他留意事項など
1-1		
1-2		
1-3	E	校給食共同調理運営協議会(14名中6名が女性)の廃止により、数値が後退した(R5:20.4%→R6:16.1%)。数値は減少傾向にあり、改善に努めていく必要がある。
1-4		
2-1	E	町内の間伐のほとんどは森林組合が行っていることから、現在の実績面積が森林組合の間伐施業能力の上限であると考えられる。
2-2		
2-3	A	新型コロナウイルス感染症の流行による生活様式の変化(巣ごもり需要の増加)等を経て、目標を上回る成果があった。
2-4	E	実施団体数は横ばいであり、高齢化等により実施団体の増加は難しいと思われるが、区長会等を通じ啓発に努める。
2-5	E	コロナ禍以降の生活様式の変化により排出量は830g～860gで停滞している。今後、ゴミの出し方の啓発により減少に努める。
2-6	E	令和4年にプラスチック資源ゴミの分別収集を始めたが、排出量は130g前後で大きな変化はない。今後も分別の徹底等により資源ごみの増加に努める。
3-1	D	新規就農に関しては、相談を受け研修及び経営に入るまでに1年～2年はかかる。相談件数はあるが、就農に就くまでに時間を要している。林業従事者経験者のため。
3-2	D	町の農地面積に対し担い手が少ないため、担い手を増員する必要がある。
3-3		
3-4	D	年々農業者の高齢化や人口減少により耕作を行っていない農地が増えているため、新たな担い手の確保及び有効活用できる施策が必要。
3-5	C	各道の駅で様々なイベント等を実施することによって来客数が伸びた。今後はさらに各道の駅の味を出したイベントを増設していく必要がある。
3-6	E	道の駅全体は微増ではあるものの他の観光施設の来客数が伸びていない。釣り客や原生林への誘客をイベントを行いながら進める。
4-1	D	農業集落排水区域及び浄化槽区域については、復旧率の上昇は見込めないが、下水道区域については、順次供用区域も拡大していることから、接続補助を活用いただき下水接続者の確保に努める。
4-2		
4-3		
4-4		
4-5	A	田口新城線の利用者増加の要因については、利便増進実施計画に基づき、設楽町役場への乗り入れや運賃の見直しを行ったことによるものだと考える。
4-6	E	今後も田口新城線の利便向上を図るため、田口バス停の改修やデジタルサイネージの設置を計画している。
4-7	E	ゲートボール大会やJA祭りに参加して加入促進を行った。目標にはまだ届かないが少しづつ加入率は伸びているので加入促進活動を継続したい。
4-8	E	基本団員数は85名と目標を下回ったが、新設した準基本団員32名を加えると117名となり概ね目標に達する。
4-8	B	下水道工事やダム関連事業との事業間調整の結果、更新工事の延長が増えたため。
5-1		
5-2	D	令和7年度からは新たな健診や助成を実施していく。引き続き、切れ目ない支援を行っていく。
5-3	D	保健センターとともに介護予防の取り組みを行い、新規認定者数の減少に努める。
5-4	C	福祉施設等からの一般雇用への移行は時間をかけて取り組まないと難しいため、今後も障害福祉サービス等を利用しながら就労移行への支援を継続していく。また、町内で働く場と機会の確保に取り組む。
6-1	D	生徒の多様な進学志向により、町外の高校等への進学が多くなった。
6-2	B	田口高校文化祭と同日同会場で開催した。1日で開催することで集客の分散が減った。
6-3	B	施設の利用者数の推移や施設の管理費用含め施設の在り方を検討していく。
6-4	E	図書館だよりなどを通して町民に対し、読書推進を行ったが、読書をする人口が減少したため。メディア機器や電子書籍の使用などにより、図書館を利用する人が減少しているため。1回の貸出図書数が3冊から8冊に増えたため。
6-5	E	リピーターを多く集客できるような企画を展開できていないため。
6-6	E	企画案は有するが、職員が収蔵品の整理・移転や事務運営等に時間を割かれ、具体的事業化へと展開する猶予がない。

令和6年度
総合計画の自己評価

	項目数	A 目標を上 回る	B 目標を少 し上回る	C 目標どお り	D 目標を少 し下回る	E 目標を下 回る
みんなが主役の全員協働のまちづくり	4	0	0	0	1	3
		0.00%	0.00%	0.00%	25.00%	75.00%
森と水が生きる環境共生のまちづくり	6	1	0	1	0	4
		16.67%	0.00%	16.67%	0.00%	66.67%
地域産業の魅力と活力にあふれるにぎわいのまちづくり	6	0	0	2	3	1
		0.00%	0.00%	33.33%	50.00%	16.67%
安全で快適な暮らしやすいまちづくり	8	1	1	3	1	2
		12.50%	12.50%	37.50%	12.50%	25.00%
支えあいと助け合いによる安心福祉のまちづくり	4	0	0	1	3	0
		0.00%	0.00%	25.00%	75.00%	0.00%
人とまちの未来を育む教育文化のまちづくり	6	0	2	0	1	3
		0.00%	33.33%	0.00%	16.67%	50.00%
	34	2	3	7	9	13
		5.88%	8.82%	20.59%	26.47%	38.24%